

瀬戸内海の地形と地質

瀬戸内海は、日本の主要な島である本州、四国、および九州に囲まれています。東西約 450 キロメートルにわたり、四つの海峡（straits）を通じて日本海と太平洋を結んでいます。

陸から海へ

瀬戸内海の地形は、火山活動、地殻運動、浸食、そして海水面の変動を通じて、数百万年をかけて発達しました。最後の氷河期、約 2 万年前には、海水面は現在よりも約 130 メートル低い位置にありました。マンモスやシカなどの化石は、この地域がかつて陸上生物を支えていたことを示しています。私たちが今日知る瀬戸内海は、約 1 万年前に氷が溶けて海水面が上昇した時に形成されました。

潮流と沿岸の生息地

瀬戸内海は比較的浅く、平均水深 38 メートル、最大水深 105 メートルです。その相互につながった盆地と狭い海峡が潮流を増幅させ、満潮と干潮の間の顕著な潮位差を引き起こします。この変化に富んだ地形が、干潟や砂浜など、多様な沿岸の生息環境を支えます。

白砂

瀬戸内海には約 1,000 の島々があり、その多くは花崗岩で形成されています。この花崗岩の浸食により、この地域の海岸線の特徴づける白砂が作り出されています。